

機体に残された弾痕



型を留めた尾部について3D スキャンを行い弾痕の確認を
部には様々なサイズの穴があるが円形で小さく周囲が内
凹んでいる特徴を持つ一群があり、これを拾った。
見られる弾痕は昇降口後ろ29 番肋材左舷下側で、そ
部のある24 番肋材右舷下部までぐるりと囲むよう
弾痕が見られる。この弾痕の

した事を裏付ける。一方エンジンは下図エンジンA の破損は顯著で
エンジンと思われる。しかし弾痕の分布と方向を見る限り
れており、主操席、指揮官席床下の外板
ないことや落下した残骸



3D スキャン図から見た弾痕の配置
明らかにナタの



YAMAMOTO BALUS アタナの山本長官機

写真：板井田洋治

「山本長官機」の墜落した場所は「アタナ」と呼ばれる神聖な
歴代のチーフや戦士が眠っているとされ、現在も村では夜
幽霊が徘徊すると信じられている。



尾翼付け根から裂けた胴体は戦時中のものでなく新しい機体

尾部は翼に破損が見られるが胴体部分はほとんど破損していない。(上)
前方から後部を見る。一式陸攻の床は同じ規格の波板パネルになっている。(下)



後方から見た山本長官機



カヒリの九五式

が吹き飛び大きく破損している。これはブインで戦車戦が
された物。当時ここは滑走路へ続く誘導路だった

